

ミャンマーからの海外技術研修員のメイティンチュウと申します。私は医療技術系の大学を卒業後、ミャンマー連邦共和国保健省の医療研究部のピンウーリン支所に勤務しています。今回、岡山県海外技術研修員事業で3カ月間岡山に滞在して、生化学関係の技術習得を行いました。

今回が私にとっては初めての海外で、飛行機の旅がどのようなものか、どうやって飛行機の乗り継ぎをすればいいのかさえ全く分かりませんでした。ヤンゴンから岡山までスムーズに来ることができましたし、乗り換えの待ち時間を利用して韓国のソウル周辺を回ることもできました。私が岡山についたのは夜の九時ごろでしたが、県国際課の藤田さんと県国際交流協会の野本さんは私のために空港で出迎えてくれました。2人のおもてなしのおかげで安心できました。宿舎までの車からは、あまり人が多くなく、車も少なかったので、岡山はどんなところだろうかと考えていました。宿舎に到着すると、日本・ミャンマー医療人育成協会の岡田先生が待っていて、私の重い荷物を5階まで持ってくださいました。私の荷物はすごく重たかったのですごく申し訳なく思いました。それから先生は部屋の使い方を説明してくださいました。

県国際交流協会と私

翌日、野本さんと国際交流センターに行き、岡山の概要を教えてくださいました。私が住むことになる岡山はとても清潔で発展しているところだということがわかりました。OICでは、野本さんが講師の先生に私の紹介をしてくれ、今回の研修概要や月例報告会等の説明をしてくれました。ボリビアからの研修生が流ちょうな日本語で話しているのを見て、ミャンマーで日本語の勉強をしなかったことを後悔しました。気を取り直してOICで日本語の勉強を頑張ることにしましたが、岡山大学での専門研修まで少ししか日本語の時間がありませんでした。そうした中でも、少しずつですが日本語を覚えることができましたと思います。

さらにその次の日に、ほかの研修生と一緒に伊原木知事への表敬訪問のために岡山県庁に行きました。自己紹介がきちんとできるか不安でしたが、なんとか終わり、通訳の方がうまく訳してくれました。伊原木知事はすごくフレンドリーに接してくださいました。知事は私たちに岡山の感想を聞かれ、岡山と母国との友好関係の発展を期待されていました。知事と写真も撮ることができ、とても充実したものになりました。

初めての月例報告会では、研修員みんなで楽しく話をして、きれいな景色を楽しみました。初めに行った鷲羽山では雨でしたが、充実した時間を過ごせました。次に瀬戸大橋の下をくぐる遊覧船に乗りました。研修員全員が瀬戸内海の多島美に見惚れていました。その後、渋川海岸を訪れ玉野海洋博物館にも行きました。海の生き物が好きな私にとって、海洋博物館は私の一番お気に入りの場所でした。次に学生服の工場に行き、学生服の試着体験をしました。みんな学生に戻った気分ですごく写真を撮りました。帰りは疲れましたが、素晴らしい県内視察になりました。

次の県内視察は備前エリアでした。はじめに、国宝である閑谷学校を訪れ、日本の教育の歴史を知ることができ、日本が教育分野において先導的な役割を果たしている理由がわかりました。座学だけでなく。スポーツや芸術も学ぶことができる日本の教育システムは素晴らしいと思います。ミャンマーでもこの教育制度が導入され、次の世代の子どもたちは日本のような教育を受けることができると思います。次に備前エリアを歩き、備前焼の窯元を訪れました。備前焼の色や模様は人為的なものではなく、炎や灰によるものとのことで、興味深く話を聞くことができました。備前焼をひとつ買おうと思ったのですが、とても高かったです。しかし、その価値があるものでした。

最後の県内視察では総社と倉敷を訪れました。井山宝福寺では紅葉がとてもきれいで、写真を撮たくさん撮りました。倉敷美観地区では、地区内を散策しおみやげを買いました。この視察ではアルゼンチンからの研修生と私だけでした。なかなか再開する機会はないであろう、ブラジルの研修生、中国の研修生、ボリビアの研修生とのお別れが次々とあったので寂しい思いをしました。この視察では紅葉を主に楽しむことができました。そして五重塔の近くで日本そばを食べました。野本さんは、県内視察の全行程で運転してくださり、各所で建物の説明をしてくださり、日本食を食べる機会を作ってくださりとても感謝しています。私たちが疲れていても、野本さんはとても元気で、安全運転で私たちを案内してくれました。私はそんな野本さんが大好きです。

専門研修

専門研修初日、岡山大学の研修先にいくとみなさんはとても温かく私を迎えてくれました。検査機器の音を聞くと力がみなぎってきました。廣畑先生は、現在の研究について説明してくださり、私がどんなことを学びたいのか尋ねました。はじめにみんなの仕事を見て、毎日一緒に昼食を食べ、そこで日本のカレーを食べるチャンスがありました。皆さんが昼食を食べ終わるとすぐに仕事に戻る姿が印象的でした。技術だけではなく、日本の仕事に対する姿勢も学ぶ必要があると感じました。職場に戻ると、皆さんがそれぞれの研究内容を説明してくれました。皆さんの研究はどれも最新のもののでできる限り多くの研究に触れていきたいと思いました。この研究室にはたくさんの先進的な機器や技術があります。

専門研修の1週目は5時丁度に宿舎に戻りました。しかし私は気づきました。他の皆はそのときまだ働いていて、彼らがいつ家に帰っているのかわからなくて、一人5時に家に帰っている自分が恥ずかしい気分になりました。2週目からは、みんなと一緒に職場に残り、みんなと一緒に職場を後にしました。日本の学生は、週末も実験があるので休みがないことに驚きました。週末でも、実験室は稼働しているのです。

専門研修の初日は、正直に言って何をここで学ぶことができるかさえわかっていませんでした。また、誰の実験に参加してよいのかもわかりませんでした。みんなそれぞれの研究論文の執筆に忙しくしていました。しかし、大月先生が私の

ことを気にかけてくださって、彼の研究への参加を呼び掛けてくれました。先生はとても忙しいにも関わらず、私に理論だけでなく技術を貴重な時間を割いて教えてくださいました。私はその分野には疎かったのですが、先生は丁寧に説明してくださいました。先生は私の仕事を信頼して下さり、とてもモチベーションが上がりました。

私は RNA の精製、抽出方法やリアルタイム PCR といった細胞培養について学びました。はじめの実験では私のデータはあまり良いものではありませんでした。これは私の経験不足のためだったと思います。しかし、先生はもっともっと練習をするように言って下さり、最後には満足できるデータを得ることができました。この経験を通して、日本とミャンマーの応用技術の比較をすることができ、日本の優れた点を習得して母国での仕事に役に立てることができました。

また、研究室では毎月それぞれの研究の進捗状況を報告する会議が開かれます。この会議では、1カ月の研究成果や進捗状況をプレゼンし、教授方と議論をすることで、ほかの人からの意見やアドバイスをすることができ、わたしがこのシステムは素晴らしいと思いました。母国の研究室でも同様のシステムを取り入れたいと思います。別の日に、廣畑先生は私にウェスタンブロット法を学ぶように言ってくださいました。先生はこの方法が私の母国の研究室に適合すると考えていらっしゃいました。

この方法のための設備は簡単にそろえることができます。私はウェスタンブロット法を経験したことがなかったので、是非習得したいと思いました。まず、インターネットや文献で理論を学び始めました。そして、私の同い年で友達のように接してくれた研究室の同僚の実験に参加し、とても楽しくこの方法を学ぶことができました。実験では何度も試行錯誤を重ね、様々な困難や問題に直面しましたが、とても充実していました。実験の合間にはたくさんのお話をし、笑いあっていました。将来のキャリアや結婚についても話をし、子どもは何人欲しいなど、とても楽しい時間でした。彼女を通して、日本の大学生について知ることができました。彼女は勉強だけではなく、弓道というスポーツに対しても情熱を傾けています。論文執筆というストレスがあっても多忙な中で、なおかつスポーツもしていることに驚きましたが、うらやましくもありました。彼女はミャンマーのカレーも試してみたいと言っていました。私は料理が得意ではないので、私が一番好きなトムヤム麺のインスタントラーメンをあげたらとても気に入ってくれました。

また、廣畑先生は月に1回夕飯をご馳走してくださいました。たくさん話して、食べて、飲んで、笑いました。これは私の人生で忘れられない思い出になるでしょう。

岡山と私

岡山で会う人にまず聞かれるのは、「岡山はどうか？」です。その唯一の回答は今も今後も「すばらしい街です。」となるでしょう。今回は私にとっての

初めての外国生活経験でしたが衣食住や天候や治安が不安でした。しかし食事については、初めて日本のラーメンを食べて、ミャンマーのものとそんなに変わらないことに気づきました。（酸味と辛味は足りませんが。）肉や野菜の価格はミャンマーよりは高いですが、とても新鮮でおいしいです。あとは岡山でバナナを栽培できれば最高だと思いました。日本食でおいしかったのは焼き鳥とラーメン、学食の焼き鳥丼です。日本のデザートも柔らかく甘くておいしかったです。住居については、岡田先生の事務所の上にあるところに住みましたが、とても快適でした。ガスも電気も安定していて、ふとんの寝心地も完璧でした。アパートの大家さんはいつもフルーツやてんぷら等の食べ物を分けてくれました。

日本人はとても真面目で社交的です。目が合うとにっこり笑って挨拶をしてくれます。自転車や車は歩行者を見つけると止まって先に歩行者を通してくれます。道に迷ったらいつでも助けてくれます。さらに、日本人は規律正しいです。道には家の裏庭にもゴミは落ちていませんし、ペットの飼い主はペットのフンを自分で処理していました。また、日本人は注意深く、時間に正確で、中でも電車の定時性には驚きました。時刻表を確認してホームで待っているとその時刻にその電車が待っています。到着時刻もとても正確です。この定時性のおかげで、イライラしている人はほとんど見かけませんでした。こうした習慣は私だけでなく、母国の同世代皆が学ぶべきものです。

また、岡山は安全で、楽しく、気候のよいところですので、晴れの国おかやまと呼んでいるそうです。町並みは歴史的なものや近代的なものがきれいに混ざり合っています。黒色が特徴的な岡山城は日本の歴史を物語っていました。また、旭川と西川が町に美しさを加えています。全ての場所が生き生きとしています。街の中心である岡山駅はいつも人でにぎわっています。バス路線は隅々まで張り巡らされ、歩行者と自転車は秩序正しく通行しています。ショッピングモールは綺麗な洋服や電化製品などで溢れています。伝統文化はとても存在感が大きなものですが、それは若い新しい文化と衝突することなく、綺麗に折り重なっており、それぞれの長所が際立っています。福祉も整っています。

さらに、休日にはミャンマー人の友人と岡山を出てローカル線で姫路まで行きました。二人ともどこに姫路城があるのかわかりませんでした。幸運なことに姫路駅から見えていました。休日ということもあり、城に入るまで長い間立って待たなければなりません。白い城は巨大で、きれいな建築様式でした。封建時代の城の防護施設はおもしろかったです。中にもたくさんの人で、ゆっくりとしか前に進めなかったおかげで、白の内装もよく見ることができました。姫路にはいつか是非家族を連れて行きたいと思いました。姫路城を見た後は動物園と買い物に行きました。

別の日には、ボリビアとアルゼンチンの研修員と広島を訪れました。当初は計画していませんでしたが、いいチャンスに恵まれました。原爆ドームと原爆資料館を訪れ、原爆の犠牲者に哀悼の意をささげ、ここまでの復興を成し遂げた日本人に尊敬の念を抱きました。次に宮島に移動し、紅葉を楽しみました。紅葉する木々を見るだけで幸せな気分になりました。そのあと、お好み焼きともみじ饅頭を堪能しました。

さらに、次の休日には大阪の USJ にも行きました。全てのアトラクションが若者や子どもだけでなく、おじいちゃんやおばあちゃんも楽しめるものになっています。私の一番のお気に入り子ども頃からのヒーローであるハリーポッターです。アトラクションではハラハラして心臓が止まりそうでした。二度と乗りたくないですが、驚きの連続でした。本当に全ての場所が魅力的でしたが、時間が足りません。

感謝の言葉

岡山での滞在中は全てのことがパーフェクトでした。来日前には想像もできなかったたくさんの経験を積むことができましたし、世界中に友人ができて、彼らの文化や考え方に触れることができました。

岡山県庁や岡山県国際交流協会の方々をはじめ、私をサポートして下さった全ての方々に感謝の意を表します。廣畑先生や全ての先生、同僚に感謝します。

さらに、ミャンマーの医療や医療人材の育成にご尽力いただいている岡田先生に感謝します。岡田先生はこれからも岡山とミャンマーとの関係を発展させてくださるものと思っています。そして私を支えて下さった皆様全員に対して、これ以上の感謝の言葉が見つかりません。つたない文章ではありますが、私の心の中ではいつも皆様方に感謝し、知識や経験を増やしていくことで、恩返しをさせていただきたいと思っています。私は日本とミャンマーの関係が、この世界が続く限り続いていくことを確信しています。